

単元名

STOP 食品ロス！
～ふみ出そう！天応から未来へつなぐ第一歩～令和7年 10月2日(木)
音楽室 計38人

「本質的な問い」・「単元を貫く問い」について

本質的な問い	食べるとはどういうことか。
単元を貫く問い	食品ロスを減らすために、私たちができることは何だろう。

単元について 【単元観】

本単元では、児童にとって身近な「食」をめぐる問題とそれに関わる人々、地域の生産者や販売者の思いや取組を探究課題として設定する。第5学年では社会科で一次産業についての学習が始まる。しかし、天応地区には耕作放棄地が広がっており、児童が農業に触れる機会がほとんどない。また、天応地区にはスーパーマーケットもなく、「食」に関わる機会が少ない。そのような児童にとって、「食」に関わる学習や体験を行う意義は大きい。

食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことである。日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は472万トン。これは世界の中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援量(2022年で年間480万トン)とほぼ同等に相当する。(消費者庁HPより)これは、社会の変化に伴って切実に意識されるようになった課題である。

「もったいない」という視点だけでなく、社会科で学習する「食料問題」「環境問題」「エネルギー問題」とも関連付けて考えることができる課題である。「食」に関わるこれらの課題が現代の解決すべき喫緊の課題であることを自覚し、自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。解決が困難な課題ではあるが、その解決に向けた探究活動に取り組むことは、本校が設定した資質・能力を育成するために、大きな価値があると考えられる。

児童について 【児童観】

①課題解決に向けて情報収集をすることはできるが、「食」の課題についての知識は乏しい。

授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材したりしている児童の割合は100%であり、情報収集力について肯定的評価が高い。その一方で、「食」についての課題を知っている児童の割合はわずか15%であった。

②学習して得た情報を様々な場面で生かすことができている。

各教科で学習したことを総合的な学習の時間の学習に生かさないか考えることがある児童の割合は97%である。また、総合的な学習の時間で学んだことを、各教科の学習や生活場面に生かさないか考えることがある児童の割合も97%である。得た情報や学んだことについて、総合的な学習の時間と各教科や生活場面との往還がなされ、情報活用力についての意識の高さが見られる。

③挑戦心はあるが、協働的な学びには課題がある。

失敗を恐れず、粘り強く、色々なことにチャレンジしようとしている児童の割合は100%である。また、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童の割合は94%であり、児童の社会参画への意識については更なる高まりが期待できる。しかし、自他を尊重した対話による学び合いには課題があり、協働的な学びを通して探究的な学習の質を高める必要がある。

[本単元に入る前に実施した児童アンケートより]

指導の工夫について 【指導観】

①多様な方法で情報を収集できるようにする。

課題解決に向けて進んで情報収集ができるという強みを生かし、児童が必要な情報を得る方法を考え、多様な方法で情報を収集できるようにする。例えば、地域や社会をよくするという視点をもつことができるよう、探究の過程で生産者や販売者等との出会いを生かし、「食」に対する見方や考え方を広げる。

②相手意識や目的意識を明確にし、児童が自ら教科等との横断的な学習に取り組むことができるようにする。

単元の導入で、これまでの児童の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせる工夫をし、現実の状況と理想の姿との対比をして問題を見出し、課題意識を高める。また、相手意識や目的意識を明確にした上で、整理・分析をしたり、まとめ・表現したりすることで情報活用力をさらに高めていく。その際、探究の過程において、各教科等で獲得した情報収集や表現方法を積極的に活用したり、根拠をもって相手や目的に応じて表現したりすることができるようにする。

③学習したことを地域社会へ発信する場を設定する。

失敗を恐れず、粘り強くチャレンジする児童の挑戦心の高さを生かせるよう、天応まちづくりセンターや企業等とも連携をし、自分たちが考えた解決策を実際に地域社会へ発信する場を設定する。そのような探究的な活動を通して、一人一人の社会参画への意識を高める。また、一人一人の役割を明確にするなど活動形態を工夫することで、試行錯誤を繰り返しながら他者と協働して探究活動に取り組み、個人の学習の質も集団の学習の質も高めていけるようにする。

1 単元目標

食品ロスの問題の解決に向けた活動を通して、食品ロスの問題が、自分、家庭、地域に関わる身近な問題であることに気づき、食に関わる人の思いや取組について理解し、食の大切さを感じながら社会の一員としてその解決に向けた方策を考えるとともに、自己の生活や行動に生かすことができるようにする。

2 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①食品ロスの問題が、自分、家庭、地域に関わる身近な問題であることに気付くとともに、食に関わる人の思いや取組を理解している。</p> <p>②体験活動を通して感覚や情報を得たり、問いに対して図書やインタビュー活動、ICTの活用等、適切な文字や数値等の情報を得たりしている。【情報収集力】</p> <p>③食品ロスの問題が自分たちの身近な問題であることへの理解は食と自分、家庭、地域との関係を探的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>①世界の食糧問題と食品ロスの現状から課題を設定し、解決の見通しを持って学習計画を立てている。</p> <p>②自分のもつ思い込みを振り返りながら、手段を選択して多様な方法で収集し、種類に合わせて紙面やICTで蓄積している。【批判的思考力】</p> <p>③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、情報どうしの関係を見出して説明している。【情報活用力及び批判的思考力】</p> <p>④食品ロスを減らすために、調査結果を図やグラフ、写真等を使い、根拠をもちながら相手や目的に応じて適切に表現している。【批判的思考力】</p>	<p>①探究活動を通して、自分自身を理解し、他者の考え等を受け入れ尊重しながら学び合おうとしている。【協働性】</p> <p>②食品ロスを減らすために試行錯誤を繰り返しながら、他者と協働して探究活動に取り組む、協働の大切さに気付いている。【協働性及び挑戦心】</p> <p>③食品ロスを減らすために、地域との関わりの中で、自分にできることを見付け、実践しようとしている。【挑戦心】</p>

※本校で重点的に育成する資質・能力【情報収集力、情報活用力及び批判的思考力、協働性及び挑戦心】

3 単元の計画 (全 50 時間)

小単元 (時数)	学 習 内 容	評 価 規 準			他教科等との関連
		知	思	態	
1 学校における食品ロスを減らすために、校内で呼びかけよう。 (15)	課題の設定 ・「食品ロス」に関する気づきや疑問等から課題を設定する。		①		ワークシート 振り返り 社会科 「わたしたちの生活と食料生産」
	情報の収集 整理・分析 ・学校における食品ロスの実態を知るためにはどのような方法で情報を収集したらよいかを考える。 ・必要な情報を収集する。 ・収集した情報を整理・分析し、何をどのように伝えるかを考える。	①			ワークシート 振り返り 国語科 「知りたいことを聞き出そう」 家庭科 「食べて元気に」
	まとめ・表現 実行 振り返り ・これまでの学習をもとに、伝えたいことを表現し、他学年に向けて発信する。		④		ワークシート 制作物 振り返り 国語科 「新聞記事を読み比べよう」「情報のとびら 文章と図表」

2 地域社会 で食品ロス を減らす取 組を考えよ う。(17)	課題の設定 ・小単元1の学習を振り返りや児童アンケートの結果から課題を設定する。 ・地域や社会にも食品ロスを減らす取組を広げるためには、「食」に関する課題や取組について知る必要があることに気付く。	①	ワークシート 振り返り	社会科 「わたしたちの生活と食料生産」
	情報の収集 ・「食」に関する課題や取組について調べ、課題解決に必要な情報の収集をする。 ・一次産業の従事者や生産者、販売者の視点から見学や体験等を通して情報の収集をする。	②	ワークシート 振り返り	社会科 「わたしたちの生活と食料生産」 国語科 「資料を見て考えたことを話そう」 理科 「植物の発芽と成長」「花から実へ」
	整理・分析 ・体験活動や調査等をして分かったことを整理し、地域社会で取組を進める準備をする。 【本時1/3】	③	ワークシート 振り返り	社会科 「わたしたちの生活と食料生産」
	課題の設定 ・小単元2の学習を振り返り、整理・分析したことをもとに課題を設定する。	②	ワークシート 振り返り	社会科 「わたしたちの生活と食料生産」
3 地域社会 で食品ロス を減らす取 組を改善 し、実行し よう。(18)	情報の収集 ・課題解決に向けて、必要な情報の収集をする。	③	ワークシート 振り返り	
	整理・分析 ・自分たちが考えた解決策が実現可能かどうかを分析し、改善する。	②	ワークシート 振り返り	算数科 「割合」「割合のグラフ」
	まとめ・表現 実行 振り返り ・自分たちが考えた解決策を実際に地域社会で実行する。 ・実行したことを振り返り、新たな課題解決策を考える。 ・単元全体の振り返りをし、単元後の自分の考えの変容に気付く。	③	行動・発言 ワークシート 制作物 振り返り	

4 本時について (本時 30/50)

(1) 本時の目標

プレ販売の振り返りと購入者や販売者の感想や意見の分析を通して、店舗販売での成功に向けた改善案を見付けることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点	◎評価規準 (評価方法) ◆「努力を要する」状況と判断した児童への手立て
導入	1 本時のめあてを確認する。	◇前時の振り返りとして、プレ販売時の写真を提示する。 ◇ドレッシングの販売の目的が何であったかを確認する。 大目的：食品ロスを減らす。 小目的：①生産者や販売者、自分たちの思いを伝える。 ②持続可能な取組にする。 ◇実際に店舗で販売をする際に、どうであれば成功と捉えるのかを確認する。	
	(めあて) プレ販売での、生産者・販売者・購入者からの意見を基に、お店での販売に向けた改善案を考えよう。		
	2 プレ販売での目標と課題を確認する。 【予想される課題 (例)】 ・買わない人が多い。 ・味の魅力が十分に伝わっていない。 ・生産者の思いが十分に伝わっていない。 ・地産地消のよさがアピールされていない。	◇前時の学習で、生産者・販売者・購入者の意見を基に、プレ販売での課題点を整理しておく。	
展開	【中心発問】消費者の食品ロスを減らす意識を高めるために、店舗販売ではどのようなことができるだろうか。		
	3 個人思考したことをグループで話し合う。 4 グループで話し合ったことを全体で交流する。	◇改善案を考えるために、グループは課題ごとに編成する。 ◇話し合う時のポイントを整理する。 ・考えた理由や根拠を明らかにする。 ・ドレッシングの販売の目的に沿っているかという視点で考える。 ◇発表する際には、大型モニターに映し、グループの考えを図示しながら説明できるようにする。 ◇考えた改善策の中から 1 つを詳しく説明できるようにする。	◆改善前の状況と改善後の状況の具体的なイメージをもって比較するように声を掛け、自分たちに取り組みそうなことを考えるように促す。
	【予想される改善案 (例)】 ・ドレッシングの価格以上の価値を伝えるポスターを作る。 ・試食販売を行い、味の魅力を実感してもらう。 ・生産者の思いや苦勞を伝えるポップやチラシを作る。 ・地産地消のよさを短い言葉で分かりやすく伝える。		

		<p>(深い学びにするための「しかけ」) 課題に対する改善案を書き出した付箋を、思考ツール(クラゲチャート)で整理し、新たな見方や考え方ができるようにする。</p>	
終末	<p>5 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(振り返りの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの意見と自分の意見は異なっていたが、二つの意見を合わせて新しい考えが生まれることができた。 ・プレ販売での生産者、販売者、購入者の意見から明らかになった課題について、みんなで話し合っ考えた改善案を実行することで、ミッションを達成させることができそうな気がした。 ・どんな改善ができるかを考えることができたので、何から取り組んでいけばよいかを決めて取組を進めていきたい。 ・自分たちが考えた改善案を実行し、自分たちが伝えたいことがきちんと伝わるような販売ができるようにしたい。 </div>	<p>◇本時の思考の過程を振り返り、次時以降に考えていくべき課題を確認できるようにする。</p>	<p>◎課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、情報どうしの関係を見出して説明している。 (クラゲチャート、振り返り) 思③</p>

5 本時の板書計画

STOP 食品ロス！
 ～ふみ出そう！天応から未来へつなぐ第一歩～

ミッション

食品ロスを減らすために、スーパーマーケットでドレッシングを販売し、食の大切さを伝えよう！



プレ販売での
生産者・販売者・購入者の意見

めあて：プレ販売での、生産者・販売者・購入者からの意見を基に、お店での販売に向けた改善案を考えよう。

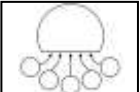

大目的：食品ロスを減らす

小目的①：思いを伝える

生産者の思いをしっかりと伝えるには？


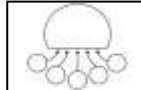



地産地消のよさを伝えるには？

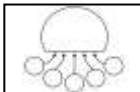
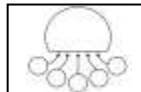



小目的②：持続可能な取組にする

買ってもらうには？

味の魅力をしっかりと伝えるには？

6 本時に関わる単元ルーブリック

観点	思考・判断・表現	
評価規準	課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、情報どうしの関係を見出して説明している。	
ルーブリック	A	B
	課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、因果関係を推測したり、説明したりしている。	課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、情報どうしの関係を見出して説明している。